

# 今年も死没囚人の法要

## 強制労働の犠牲者しのび供養



毎日暑い盛りの8月10日に囚人墓地保存会が営んだ法要(蓮心寺にて)  
左下写真は、謝辞を述べる浦川代表。



大牟田囚人墓地保存会(浦川守代表)は、八月十日午前十時から大牟田市久保田町の蓮心寺(蓮池西乗住職)で第十五回目の死没囚人労働者の法要を営みました。

この日、およそ六十人の人々が参詣し、苛酷な強制労働の犠牲者となった三池炭鉱での囚人労働者へのしのびながら、霊を慰めました。また三池労組OBの高柳龍生さんが弔詞を捧げました。

囚人墓地保存会は、囚人墓地をはじめ三池炭鉱における囚人労働の歴史を語り伝える史跡などを保存する運動に取り組んでいます。

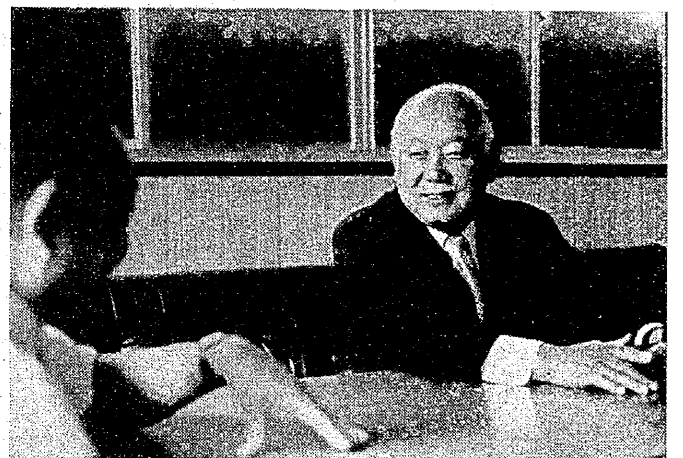
三池 冨なき盆の  
盆 盆の  
盆 盆の

六年余りになります。三池炭鉱での囚人労働は、明治六年三藩(現在の福岡県)の囚人五十人で、竜湖(現在の大牟田)までの石炭運搬の苦役の試用から始まり、昭和五年の廃止まで実に五十七年間もの長いあいだつづきました。囚人労働は、三池炭鉱だけではありませんが、期間が長かったこと、人員が多かったことでは他の例を見ません。

真つ黒な坑底、苛酷な環境の中で流された血と汗、この尊い人柱がなかったら、三池炭鉱の発展はいうまでもなく、こんにちの大牟田はなかつたでしょう。

(一) 句 冨なき盆の  
盆 盆の

## 阿具根参院副議長が来組



三池労組の出身で、さきの改選で参議院副議長に就任した阿具根さんが八月九日、長崎の原爆記念式典に参議院代表として出席したあと大牟田入りし、市役所や商工会議所、労働組合などをあいさつのために訪問しました。

十日は早朝から市内竜湖の先祖の墓にお参りし、そのあと三池(組合事務所での阿具根さん)

### 短信

#### 伸び率最低

夏のボーナス

労働省は八月十七日、主要民間企業(資本金二十億円以上、従業員千人以上の労働組合を持つ二百八十八社)の今年夏のボーナス支給状況をまとめた。

それによると、平均支給額は加重平均で五十一万二千三百十四円で、昨年夏に比べて一・七%の低い伸び率となりました。これは昨年夏の前年比伸び率五・二%を大幅に下回るもので、一社当たり単年平均の前年伸び率は〇・五%と、同省が調査を始めた昭和三十七年(戦後の最低の伸び率)の最もあり産業は、新聞・放送で六十九万七千七百四十四円、次に証券、水産・食料品、自動車の順。逆に最も低いのは繊維で四十四万四千五百四十四円、次いで鉱山となっています。

### 釣きま余談

#### びつくりさせてすんまつさんの巻

第三十二回 石田 鈍 竿

(その2)

昭和五十一年七月初旬、I、M両君と三人で生深沖に釣行した。帰りに、途中の瀬で一人の釣り客を乗せるために瀬付けをしたが、船首に一番近い所に座っていた俺が、荷受けの手伝いをした。今日は、どこも不漁のようであらう。

釣人も乗り終えたので、船の中央へ戻ろうとしたら、脚の調子がどうもおかしいので、脚に目を移すと、足首から先が九十度ぐらい内側倒れているではないか。足首と本体を接続しているホルトのナットが、岩場を飛び回っている時にゆるんでいたらしく、瀬の荷受けでの土間板をスパイク足袋で踏ん張っていたので、板に噛み込み、本体だけが向きなおり、足首が内側倒りに倒れていたのだ。

船頭と釣りの目が、いっせいに集中している。

「ニッコクと笑い返して腰をおろし、両手で力一杯、キキキ」と真つすべに引き戻した。ついでに船頭の頭を見て、「ニヤッコ」笑ったら、船頭は目をまん丸にして、「ほほほ引き戻させた。」

「びびりおぼけてすみませぬ。港までにはまだ時間がある。この船頭は、もともとが滑り商売で、各機のパラントに精通していろいろ話を聞いているので、二三話してみようかと操縦席へ行った。

話してみても、大きな頼から名もない小さな頼まで、潮の流れ方から海底の様々までよく聞かされてくれた。悪いけど、話半分とめても、さすがだなあ

## 女坑夫の語り聞きから

### あとがき

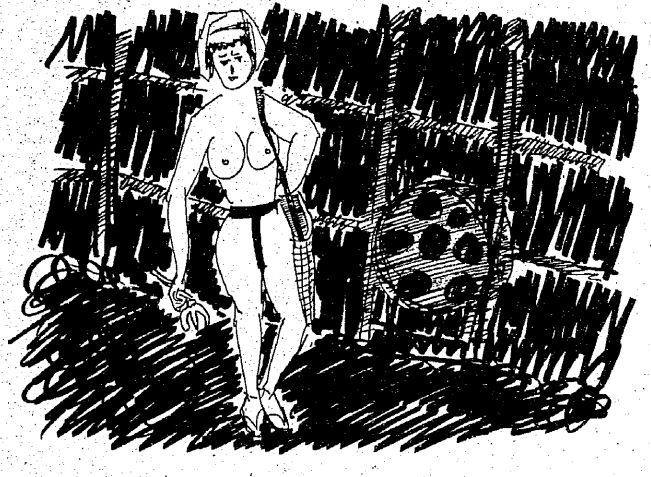
十六分会(本所) 武松輝男

#### 最終回

女坑夫といふこの、炭坑の暗い坑底で働いていた女たちの呼び名を聞くと、心悲(こころかな)しなる。そして、その女坑夫といふその名を呼んだものに、哀れとあつた。あるいは、言ひやうのないとしか言えない重労働をもちつた。胸深くもたはして、こぼれおぼたつた。

女坑夫といふこの、炭坑の暗い坑底で働いていた女たちの呼び名を聞くと、心悲(こころかな)しなる。そして、その女坑夫といふその名を呼んだものに、哀れとあつた。あるいは、言ひやうのないとしか言えない重労働をもちつた。胸深くもたはして、こぼれおぼたつた。

「初めて入坑しますでしよ。そとと、落盤で頭蓋骨が割



光が届かない世界といふのは、男女の別がなくなり、男の世と女の世とを言ひやうのないとしか言えない重労働をもちつた。胸深くもたはして、こぼれおぼたつた。

「坑内は、地獄です。地獄です。地獄です。地獄です。」

女坑夫といふこの、炭坑の暗い坑底で働いていた女たちの呼び名を聞くと、心悲(こころかな)しなる。そして、その女坑夫といふその名を呼んだものに、哀れとあつた。あるいは、言ひやうのないとしか言えない重労働をもちつた。胸深くもたはして、こぼれおぼたつた。

女坑夫といふこの、炭坑の暗い坑底で働いていた女たちの呼び名を聞くと、心悲(こころかな)しなる。そして、その女坑夫といふその名を呼んだものに、哀れとあつた。あるいは、言ひやうのないとしか言えない重労働をもちつた。胸深くもたはして、こぼれおぼたつた。

